



世代を超えた防災まちづくり ～自助、ご近所、共助で防災・減災へ取り組む町～



福島県 郡山市大槻中央地区団体連絡協議会
会長 鈴木 光二

1 はじめに

郡山市は、福島県の中央に位置し、東北地方で第2の経済規模を誇る都市圏を形成している商工業都市です。大槻町は、安積疎水の灌漑を受ける農業が盛んな地域でしたが、交通インフラの整備に伴い市街地へアクセスしやすくなったことで、現在では自然が豊かなベッドタウンとして人口が大幅に増加している町です。大槻町の防災活動の中心的な役割を担っている大槻中央地区団体連絡協議会は、幅広い世代が生活する大槻町で老若男女による防災への取り組みを実践しています。

2 組織と取り組み

平成7年の阪神・淡路大震災をきっかけに、自主的な防災活動による災害の被害防止と、近隣の相互協力による被害軽減を図ることを目的に、協議会の前身である大槻六町内会自主防災組織が発足しました。その後、平成9年に町内会の各種団体相互の緊密な連絡調整を図るため

に町内会連合会・交通安全協会・社会福祉協議会・防犯協会・小中学校PTA・警察・消防など、様々な団体で組織される大槻中央地区団体連絡協議会が設立されました。

東日本大震災を振り返ると、大規模災害が起こった際に、停電や電話の不通、交通網の遮断により、住民の安否確認及び被災状況の把握が困難な状況から、初期における対応の重要性を改めて痛感しました。

そこで、災害への備えとして自主防災組織が取組むことのできる「自助」と「共助」のあいだに、昔からの隣近所のお付き合いを大切にする「ご近所」をスロー



防災訓練



消防団



少年消防クラブ

ガンとして加え、震度5弱以上の地震や大雨特別警報発令時などにおける災害対策本部の体制強化を行いました。

令和元年に発生した東日本台風や令和3年に起きた福島県沖を震源とする地震の際には、早期に災害対策本部を立ち上げ大槻町内の被害状況の把握などを行い、以前にも増して積極的な活動を展開しています。

これらの活動が認められ、郡山市が国際認証取得しているセーフコミュニティにおいて、安心・安全なまちづくりに寄与したとのことで、セーフコミュニティ賞を受賞することができました。

3 幅広い年代の取組み

●幼少期の取組み

幼年消防クラブ員として火災予防運動の機会に消防署員や女性消防協力会と協力して街頭活動等に取組んでいます。小学校に入ると少年消防クラブに入会し、消防訓練をはじめ、小学校周辺の避難場所や危険箇所を確認する防災探検に取り組んでおり、幼少期から自分が住んでいるまちの安心・安全への関心を高めています。



幼年消防クラブ・女性消防協力会

●消防団、女性消防協力会

消防団にあつては、常備消防と連携し多くの災害で活動しています。災害対応のほか、町内の運動会や祭り等のイベントにも参加し、地域に密着した火災予防活動や団員加入促進を行っています。団員の意識も高く、訓練や研修等に多くの団員が参加しており、特に消防操法大会では全国出場を複数回果たすなど優秀な成績を収めています。

女性消防協力会では、救急法講習や炊き出し訓練等に多くのクラブ員が参加しています。また、火災予防啓発活動に力を入れており、火災予防運動やイベントでの広報活動、毎月1回消防署員と合同で町内のパレードを実施しています。このような日頃の活動が認められ、福島県女性防火クラブ連絡協議会において、優良女性防火クラブ員として表彰を受けているクラブ員が多数在籍しています。

4 おわりに

幼少期からの人づくり等の活動を通じて、防災に対する取組みは特別なことではなく、日常の一部であるとの意識が地域に根付いています。旧来からの考え方であるご近所付き合いを大切にすることで、災害を他人事ではなく自分事として捉え、防災訓練等への積極的な参加につながるなど、地域全体の活動も広がりを見せています。

今後も「自助、ご近所、共助」を合言葉に幼少期からお年寄りまで幅広い世代で町の地域防災力と減災力を高めていきたいと思ひます。